

# 長野史料ネットワーク

第5号

## 《平成 11 年度第一回 文献史料保存 活用講習会開かれる》

新緑の5月27日(木)、標記の講習会が長野県立歴史館で開催されました。

冒頭、関孝一歴史館学芸部長から次のようなあいさつがありました。

「長野県の文化財で文献・民俗資料は弱い立場にある。文献史料が流失したり、焼却されたりしている現状から、本年史料協を設立することになった。積極的に参加し、長野県の文献史料の保護に、共に取り組んでいただきたい。」

長野県にも史料保存活用の灯火がともされる年になるかと思えます。

講習会の内容は以下のとおりでした。

報告①長野県立歴史館における資料の利用

専門主事 傳田伊史氏

報告②軽井沢追分宿郷土館における史料の保管と展示について

学芸員 原田政信氏

報告③上田市立図書館における図書の利用と保管について

司書 荒井美栄子氏

実習：紙帙(保存箱)による史料保存

報告：史料協結成に向けて

報告①では、歴史館の資料分類と収蔵施設を紹介し、資料の材質を考慮した保存やランニングコストの問題点を指摘しました。また資料の劣化に与える光の害について、実験結果の紹介がありました。

紫外線のうち、資料に与える影響が大きいといわれる UV25 の値をみると、デイトライト(日光)よりコピー機の方が高い値を示しています。このことからコピー機による原文書の複写を禁止していることや、展示基準を設定していることが報告されました。

報告②では、日頃の古文書整理作業のなかから感じている問題点を指摘し、その解決策について共に考え合う場を提供していただきました。古文書目録の作成、保存方法について基礎的な問題を今後も検討していくことになりました。特に、中性紙の保存用の封筒をより普及させるため、小規模自治体が相互に協力しあう体制が必要になってきています。

報告③では、資料保存体制を見直すきっかけ、具体的対策など実践の一端が発表されました。具体的な対策として紹介されたのは、ア. 保存容器(木箱、中性紙封筒)、イ. 代替化(マイクロフィルム化、複製本作成、買い替え)、ウ. 修理、エ. 廃棄(分担保存)です。今後も、UV対策、書庫内の環境調査、館の方針の確立、史料のデジタル化などさまざまな課題に立ち向かっていくとのことでした。紹介されたテックペンを用いて、紙の中性度を確かめてみる参加者がいらっしゃいました。

長野県内の図書館関係者にも資料保存の芽生えが感じられます。昨年秋、県立長野図書館の尽力で開催された、関東ブロックの図書館整理部門研究集会以来、確実にその芽が育ってきているように思われます。

実習では長野県立歴史館における紙帙（保存箱）作成の経過をふまえ、実際に作業にあっている専門員から作業のポイントを聞きました。その後6人ずつのグループに分かれ、紙帙作りに挑戦しました。持参した貴重史料にぴったり合うように製作され、おみやげができたようです。今回講習会用に、歴史館で簡易製作法を検討しました。歴史館でも従来までの製作法に改良を加えながら、よりよい保存方法を検討しております。今後も各機関でご要望があれば、実習をおこないますので、ご相談ください。



閉会行事のなかでこれまでの史料協の準備会の動向やあり方について、説明がありました。

おわりに、歴史館の樋口和雄文献史料課長から締めくくりの話がなされました。「理想的でない環境に史料を長時間おくと劣化するが、どう改善していくかを工夫し、より理想に近づけていきたい。そのために、みんなで研究しあっていくことが大切で、常に刺激を受け合っていくことを出発点にしたい。本年のネットワーク結成にご協力いただきたい。情報交換の場を通して、研鑽していける場を設立することに今後とも全力をあげたい。」

と締めくくりのあいさつがありました。

今回参加された方がたからの御意見は次のとおりでした。

- 実習があって、説明よりはるかに理解できました。
- 時間が短く感じられます。何回か継続的にこなっていただきたいと思いません。

○グループに分かれての実習ということで、自然に打ち解けて和やかな雰囲気にもなれてよかったです。

○いろいろな機関の方が集まっており、情報交換等ができ、とても有意義な一日でした。県内の各機関のつながりが深まれば良いと感じました。

○実技講習の紙帙製作が大変役立ち、かつ楽しい一日でした。同じ机の方達と交流ができ、情報入手もでき、思わぬ副産物を得ました。こういう共同作業の場は豊かなものを生み出す機能があり、有意義と思います。

〈史料協についてご意見〉

○中性紙の箱・封筒など共同購入できるようなネットワークは助かります。

○期待しています。民間の団体も幅広く加えてください。

○何にせよ発足する事が大切だと思う。活動に積極的に参加・協力させてもらいたいと思う。

### 《新情報》

東京品川区にある国立史料館では、従来より検討を進めていた、全国史料目録データベースをインターネットで公開する準備を進めています。これによると、国立史料館に収集された史料目録の概要についてテキスト（文章）で見られるようになるそうです。すでに入力の済んだ長野県関係の史料目録は、3316件のぼるようで、公開の日が待ち遠しいようです。「〇〇藩の江戸前期の検地帳があるのはどこか？」調べることができます。また、長野県立歴史館でも市町村で作成された古文書目録等を収集しております。関連の情報がありましたら、お知らせください。

※次号（秋号）は第二回講習会、史料協準備会のようなすをお知らせします。

<p>長野史料ネットワーク 第5号          発行日：1999年 7月          編集・発行 長野県立歴史館          文献史料課          〒387-0007 更埴市屋代清水 260-6          TEL026-274-2000（代）</p>
--